

質の高い家庭医療を整備する  
ことで期待される利益

## 驚きの事実



Barbara  
Starfield教授  
米国、ジョンズ・  
ホプキンス大学

米国では家庭医1人の増加が  
市民100,000人あたり平均34  
の救命と関連していた

この関係性は、他のどの専門  
医にもいままで認められたこと  
がなかった

# 家庭医療はどのように助けとなりうるか:

## (1) 高齢者のケア

- 病院の定期的フォローアップや監視の負担を軽減する
- 多数の診断を持つ患者での過治療、薬物相互作用の危険を軽減する
- デイケアや休息介護など地域の資源への連携を容易にする
- 家族と介護者を日々の管理に巻き込む

## 家庭医療はどのように助けとなりうるか:

### (2) 産科と婦人科

- 通常の妊娠・出産前・後のケアを引き受ける
- 避妊や性関連保健サービスを提供する
- 通常、閉経期やホルモン補充療法を取り扱う

## 家庭医療はどのように助けとなりうるか:

### (3) 小児科と小児保健

- 通常の小児発達評価や予防接種を行う
- 軽症の病気や併発症を治療する
- 喘息、湿疹、哺乳問題、夜尿症、学習困難などの小児を取り扱う
- 小児期のほとんどの行動学的・心理学的問題を小児保護を含めて取り扱う

## 家庭医療はどのように助けとなりうるか:

### (4) 精神科と精神保健問題

- うつと不安のほとんどのケースを取り扱う
- 個人または家族の危機状態の初期介入をする
- 心身症的障害での紹介率を軽減する
- 統合失調症、躁うつ病、強迫神経症の管理を分担して受け持つ
- アルコール症や薬物依存の多くのケースを取り扱う
- カウンセリングやいくらかの精神療法を引き受ける

## すぐれた2次ケアに加えて 強力な家庭医療を持つ ことのその他いくつかの利点

- 病院と専門医は、その専門手技と資源が真に必要な患者に集中することができる
- ハイテク検査・治療がより適正に利用できる
- 適切な訓練を受けた医師に患者が受診できる可能性がより増加する
- 遠隔地・へき地でのケアの水準が高くなる
- 健康の不平等が軽減する
- 医療労働力のより効率的な利用
- 医療のより包括的な視点を医学生に教育する機会
- 国内総生産 (GDP) 比が同じでもヘルスケアが改善する
- 患者 (有権者) の満足がより大きくなる

## よく発達したプライマリ・ケア・システムで 次のことが実現すると研究エビデンスで示されている:

- 糖尿病と糖尿病合併症の臨床アウトカムが改善(死亡、切断、血糖コントロールを含む)
- 喫煙、アルコール症、肥満の発生率減少
- 高血圧合併症の減少
- 狭心症、心不全、肺炎での入院率減少
- 多くの胃、大腸を含むがんのより早期の診断
- 心疾患、がん、脳卒中での死亡率の減少
- 社会的、経済的に恵まれない人口階層でのより良い健康アウトカム
- 予定外妊娠、若年妊娠の減少
- 処方薬のコンコーダンス(コンプライアンス)の改善
- 終末期ケアの質に対するより大きな満足

# 家庭医療の発展が 日本ではどのような助けになるか

- 顕在化している小児科と産科・婦人科での医師不足を緩和する
- 遠隔地、へき地でのヘルスケアを改善する
- 医師の仕事量を増やすことなく、より効果的なヘルスケアを提供する
- ヘルスケア提供の拡大する費用増大を抑制する
- 若い医師に対して魅力的なキャリア選択を提供する